

○英國商船高陞號擊沈ノ事

豊島沖海戦ノ際帝國軍艦退速カ清國政府雇英國商船高陞號ヲ擊沈セシメタルコトハ開戦前ニ清國政府ノ為メ兵士及武器ヲ搭載セル局外國ノ運送船タリトノ故ヲ以テ將ニ國際上ノ問題ヲ日英兩國間ニ惹起セントスルノ形勢ヲ生セシヲ以テ陸奧外務大臣ハ本邦駐劄英國代理公使ヲ招キ告クルニ帝國軍艦退速カ高陞號ヲ擊沈セシメタルノ事實ヲ以テ且ツ他日本件ニ関スル顛末審査ヲ遂ケタル末若シ帝國軍艦退速ノ行為ニシテ正鵠ヲ失セハ帝國政府ハ敢テ相当ノ補償ヲ怠ラサルベシト述ハ七月廿九日法制局長官末松謙澄ニ左ノ訓令

外務省

一 今回朝鮮國牙山口ニ於テ擊沈シタル運送船ハ其船名ヲ何ト称シ清國船籍ニ屬スルモノナルカ又ハ他國船籍ニ屬スルモノナルカヲ確カメル事
 一 該船ノ噸數、船質、速力及其製造年月
 一 乗組人ノ總數及其屬籍
 一 該船ニ乗込居リシ兵員ノ數及武器ノ數
 一 乗組西洋人ノ姓名職務及年齡
 一 出発セシ場所及其指往ノ場所
 一 出発ノ年月日時
 一 沈没ノ際死セシ員數及生存ノ人員
 一 該船ハ清國政府ニテ新タニ買入シ未タ旗章ヲ換ヘサル内ニハ非サルカヲ確カメル事
 此外タリトモ總テ我參考ト可相成事項ハ可成細密ニ被取調度候右及訓令候也
 一 附與シ高陞號沈没ノ際帝國軍艦退速カ援助セシ該船

MT

1129 01332

MT

1129 01331

090642

長及第一ノット二名(英人)按針手一名(西班牙人)及帝國
 軍艦秋津洲カ捕獲セシ清國軍艦操江艦長以下架組丸五
 十名ト兵ニ軍艦八重山ヲ以テ帝國根據地ヨリ佐世保へ
 送致セル者ニ就テ其顛末ヲ調査セシメタリ
 末松法制局長官ハ高陞隊架組員並ニ清國軍艦操江ノ便
 架者丁抹入ヲ取調ヘシ末高陞隊ノ船長ニハ金二千円一
 等運轉手ニハ金千五百円按針手ニハ金八百円ヲ惠與シ
 八月四日負傷セル按針手ヲ除クノ外船長等ヲ佐世保鎮
 守府所轄小蒸汽船ヲ以テ長崎へ送り解放セシメタリ
 末松法制局長官ノ調査始末書ハ左ノ如シ

外務省

MT

1129 01333

REEL No. 1-0058

0085

帝國政府ハ未松法制局長官ノ調書ニ依リ軍艦退速ノ行
為ヲ正当ナリトナシ一点ノ疑義ヲ存セサルモ英國政府
ハ未タ其ノ詳細ヲ聞知セサルニ先立テ八月三日在英青
木公使ニ書ヲ送リテ曰ク

高陞號沈没ニ関シ未タ詳細ノ報道ニ接セサルモ日本
政府ハ其責任ヲ負フヘシ此旨豫メ通告ス

ト頗ル帝國軍艦退速ノ行為ニ疑義ヲ抱ク者ノ如クナル
ヲ以テ青木公使ハ公使館雇外國人シロホルトヲシテ公
然トナク英國外務次官ニ面會セシメ帝國軍艦退速ノ行
為ニ對シ帝國政府カ毫モ責任ヲ負フヘキ理由ナキヲ論
辨セシメタリ左ニ其問答ヲ録セン

千八百九十四年八月七日「バロン・アレキサンダー・シロホ
ルト」トバルチ「氏」ト對話ノ要旨

外務省

シ 拙者ハ公ニモ私ニモ別段御通知スヘキ事ナシ然レ
トモ唯タ貴官カ何か拙者ニ申聞カサルヘキ御意
意モアランカト存シテ訪問セリ

バ 拙者ハ日本ノ勝利ニ就テハ未タ何等ノ新報ニモ
又確報ニモ接セス(氏ハ勝利ナル語ヲ發スルトキ
稍々疑アル色ヲ色ハセリ)

此時「シ」ハ「バ」ノ手ニアル朝鮮國地圖ニ目ヲ留メ此時
ノ戰爭ニ関スル詳細ノ件ヲ指示センコトヲ乞ヒ牙
山ノ本營即チ清國ノ最初ノ地位ハ今ハ奪ハレ朝鮮
國南部ニ於ケル清國兵ハ潰散セルヲ以テ京城近傍
ニ於ケル戰爭ハ實際終局シタルコトヲ説明セリ
ハ「キムバール」卿カ英艦高陞號沈没事件ニ関シ
青木子爵ニ送リタル書翰ニ其語頭ヲ轉セリ

MT 1129 01335

MT 1129 01334

其書翰ノコトハ拙者モ聞及ヘリ然レトモ目下ノ
 事情ニテハ英國外務省カ右書翰ニ對シ充分ナル
 回答ヲ得ント欲スルコト六ヶ敷シカルベシト想像
 ス此度ノ事ハ實ニ不幸ナル事變ニシテ拙者モ一
 個人トシテハ遭難者ニ對シ氣ノ毒ニ思ヘリ然レ
 トモ軍事上殊ニ又國際公法上ノ點ヨリ觀察セバ
 英國外務省ノ抱ク意見トハ異ナルトコロノ意見
 ヲ取ルコトヲ得ヘシ

此問題ハ單ニ左ノ如シ即チ日本國ノ一巡洋艦カ
 清國政府ニ於テ千八百八十五年ノ條約上出兵ノ
 權利ヲ有スル場所ナル朝鮮國へ清國兵ヲ運送セ
 ントスル英國船ヲ沈没セシメタルナリ日本人ハ
 此船ヲ遮止シ又ハ清國ノ出兵ヲ妨クル權利ヲ有
 セス

外務省

全ク然リ然レトモ貴官ハ一事ヲ忘却セラレタリ
 即チ在東京英國代理公使カ日本政府ニ通知シタ
 ルニハ清國政府ハ今回ノ葛藤ヲ調停センカ為メ
 其最終ノ提議ヲ差出シタルトキ日本國ノ黙諾ハ
 六月二十日マテニ必ス明言セラレヘシ當日若ク
 ハ其以後ニ至レハ清國政府ハ朝鮮國ニ出兵ヲ始
 ムベシト明言シタル由ナリ是レ即チアルチマタ
 ムニ非カリシヤ又斯カル事情アルニ際シテ出兵
 ヲ通知スルハ數日後ニハ交戦ヲ始ムヘシト強迫
 シ若クハ宣言スルニ外ナラスヤ歐洲諸國ノ政府
 ニ於テハ何レモ右ノ如キ解釋ヲ下スヘシ
 或ハ然ラシ然レトモ日本國政府モ亦其對案ヲ以

MT 1129 01337

MT 1129 01336

テ清國ニ僅ニ五日間ノ猶豫ヲ與ヘテ其決心ヲ促
カシタリ故ニ「アルチマタム」ハ亦日本ノ方ヨリモ
出タルナリ

「アルチマタム」ノ差出サレタルハ孰レノ方ニアル
ヤニ就キテハ論スルニ及ハス拙者カ爰ニ證明セ
ント欲スル所ハ唯タ「アルチマタム」カ兎ニ角一方
ヨリ差出サレタルノ一事ニアリ而シテ其期限ノ
經過スルトキハ早晚戦争ノ始マルコトハ覺悟セ
サルヘカラス

然レトモ實際未タ開戦ノ宣告アラサリシナリ
是レ拙者ニ於テモ認ムル所ナレトモ近世ノ國際
公法家殊ニ英國公法家ノ説ニヨレハ正式ノ宣戦
ハ之ヲ要セス單ニ國境ニ進軍スル意志ノ表明ノ

外務省

ミニテ充令ナリ貴官モ定メテ御記憶ナラシカキ
八百七十年普佛戦争ノ始マリニ於テ在柏林佛國
代理公使ヨリ「ビスマーク」ニ差出シタル書翰ハ單
ニ佛國政府ハ其權利ノ保護ニ必要ト認ムル處置
ヲ取ルヘシト開陳シタルノミ日本國政府ノ如キ
ハ是ヨリモ一層鄭重ナル手續ヲ執リ英國公使ニ
依頼シテ清國政府ヘ通知シタル所ハ清國猶ホ其
兵ヲ増發スルトキハ日本政府ハ之ヲ恐嚇ト見做
シ即チ之ヲ交戦ノ行爲ト思考スルコト判然ナリ
ト云フニアリ

然レトモ戦争ハ實際未タ起ラサリシナリ
然リ高陞弭カ退速艦ノ為メニ差留メラレタル時
ニ於テハ未タ起ラサレトモ其後數分時ノ後ニ於

MT 1129 01339

MT 1129 01338



テ實際起レリ何トナレハ濟遠號カ浪速艦ニ向テ
水雷ヲ發射シタレハナリ拙者ハ此水雷ノ發射ハ
交戦ヲ意味スルモノナリト思考ス

〔バ〕 確カニ然リ然レトモ此事ハ未タ証明ヲ得ス
拙者ハ浪速艦カ發砲ヲ差控ヘ居タル後濟遠號ヨ

リ第一砲ヲ發射シタルニ相違ナシト信ス何トナ
レハ濟遠ハ休戦旗ヲ掲ケタレハナリ而シテ其休
戦旗ヲ掲ケタルハ甚タ其意ヲ得ヌコトナリ何ン
トナレハ是レ此旗ヲ楯トシテ敵ニ近ツカントス
ル詭計ノ如ク見ユレハナリ然レトモ此事ハ爰ニ
ハ關係ナキコトナリ

〔バ〕 清國巡洋艦ノ發砲シタルハ浪速艦カ其運送船ヲ
留メタルヲ以テナリ

外務省

〔シ〕 此運送船ハ英國若クハ清國船ナリ若シ貴官ノ申
サル、如ク其英國船ナルトキハ支那軍艦ハ之ニ
干涉スルノ權利ナシ何トナレハ是レ英國軍艦ノ
職務ニ屬スレハナリ若又右運送船カ清國船ナル
トキハ清國軍艦ハ勿論之ニ干涉スルノ權利アリ
然レトモ其場合ニハ英國政府ニ於テ今苦情ヲ唱
ヘラル、理由ナシ而シテ右運送船ハ英國船タル
カ清國船タルカ兩者其一ニ居ラサルヘカラスシ
テ同時ニ兩者タルコトヲ得ヌ故ニ若シ之ヲ英國
船ト假定スルトキハ清國軍艦ハ發砲スヘキ理由
ヲ有セサルナリ

〔バ〕 該船ハ英國船ニシテ貴下カ申サル、如ク清國軍
艦ハ其留メラレタルノ故ヲ以テ發砲ヲ始ムル理

MT 1129 01341

MT 1129 01340

由ヲ有セス然レトモ退速艦ハ又該船ヲ差留メタ
 リ
 然リ然レトモ時ノ順序ニ從フテ此事變ヲ論セラ
 レタシ然ラハ貴官ニ於テモ浪速艦ノ舉動ノ全ク
 當然ナルコトヲ了解セラルヘシ日清間ノ戦端ハ
 濟遠ノ所行ノ為メニ開カレ其時ヨリ戦時ノ法律
 實行セラレ、ニ至レリ而シテ此法律ニヨレハ交
 戦國ハ戦時禁制品ヲ運送スル中立國ノ船舶ヲ差
 留ムル權利ヲ有スルモノナリ兵士及軍器ノ戦時
 禁制品ナルコトハ貴官ノ認メラル、所ナリト信
 ス
 勿論然レトモ該船ヲ沈没セシメ其人員ヲ溺死セ
 シムルノ必要ナシ

外務省

其事ハ後段ノ問題ニ屬ス戦端既ニ開ケ浪速ノ艦
 長ハ短艇ヲ派シテ同艦ニ隨伴スヘキ命ヲ高陞
 二傳ヘタリ換言スレハ該艦長ハ同船ヲ捕獲物ト
 シタリ是レ即チ國際公法ノ許ス所ナリ
 然レトモ該船ヲ沈没セシムルニハ及ハス
 是レ亦後段ノ事ニ屬ス浪速艦長カ隨伴スヘキ命
 ヲ高陞號ニ傳ヘタルトキ同船長ハ之ニ從フタリ
 然ルニ清國人ハ降ヲ拒テ之ヲ妨ケタリフオンハ
 ン子ツケン氏「カウエ」船長及浪速艦長ノ証言
 ニ由テ觀レハ高陞號ノ船長ハ既ニ其船ヲ指揮ヲ
 失ヒ全ク清國人ノ捕虜トナリタルコト明白ナリ
 清國人ハ船長ノ生命ヲ脅シ其短艇ヲ卸スコトヲ
 妨ケ即チ法律上ヨリ言ハハ其船ヲ掠奪シタリ故

MT 1129 01343

MT 1129 01342



ニ其船ハ蓋シ英國ノ國旗ヲ掲ケ居タリトスルモ
 最早英國ノ所有ニアラス何ヤレハ其代表者タ
 ル船長ハ既ニ其自由ヲ失フテ捕虜トナリタレハ
 ナリ此事ハ該船ニ乗込ミタル清國兵士カ自ラ之
 ヲ行フタルカ若クハ其將校ノ命令ニ出テタルモ
 ノニシテ第一ノ場合トスレハ法律上ヨリ言ハハ
 其船ハ海賊ノ手ニ落キタルナリ第二ノ場合トス
 レハ清國皇帝陛下ノ軍兵ハ日本政府ト清國政府
 トノ間ニ戰爭ノ始マリタル時ニ於テ該船ヲ奪フ
 タルナリ故ニ浪速艦長カ右ノ如キ軍事上ノ處置
 ヲ施シタルハ全ク當然ナリトス即チ敵兵ノ乗組
 ミテ其有ニ屬スル船舶ノ抵抗ニ打テ勝タントス
 ルニ必要ナル所ナリ

外務省

然レトモ該船ヲ沈没セシムルマテノ必要ナシ
 此點ニ於テモ亦私情ト公法トノ區別ヲ立テサル
 ヘカラス若シ該艦長ニ於テ他ノ處置ヲ施スノカ
 ナレトスルトキハ該艦長ハ法律上毫モ責ムヘキ
 モノナシ若又拙者ノ信スルカ如ク該艦長ノ同伴
 軍艦ハ清國巡洋艦ヲ追フテ進航中ニシテ何時優
 勢ナル清國水師ノ為メニ襲撃セラレハヤモ計リ
 難キヲ以テ此際一瞬モ失フコト能ハサル場合ト
 スレハ該同伴軍艦ニ引續キ進航スヘキハ浪速ノ
 義務ナリトス加之浪速ハ清國軍艦ヨリ甚タ粗暴
 ナル取扱ヲ受ケテ自ラ殆ト沈没セシメラレント
 スルノ危険ニ臨ミタリ何トナレハ其機關室ヘ打
 込マレタル榴彈ニシテ若シ破裂シタランニハ浪

MT 1129 01345

MT 1129 01344

速ノ運命ハ全ク極マリタレハナリ
 然レトモ水中ニ陥リタルモノニマテ發砲シタル
 トハ如何
 此事ハ其後ノ報道ニテ明白ニナレリハン子ツケ
 ン氏ノ最終ノ陳述ニ由レハ軍装シタル日本ノ短
 艇カ沈没中ノ船ニ向テ發砲シタリトアレトモ是
 レ果シテ何ノ為ナルヤ貴官ニ於テモ該船長ノ陳
 述ヲ閱讀セラレテ御了解アルヘキカ如ク是レ軍
 ニ清國兵カ水中ニアル歐洲人ニ發砲シタルカ為
 メナリ即チ日本人ハ此等ノ歐洲人ヲ救助センカ
 為メニ出テ来リ激昂シタル清國兵ニ對シ彼等ヲ
 保護シタルニ外ナラサルナリ英國ノ公衆カ誤謬
 偏頗ノ電報ノ為メニ始終惑ハサレタルハ實ニ遺憾
 トス此等ノ電報ハ皆上海及天津ヨリ来タレリ
 ト稱スルモ多クハ英國ニ於テ構造セラレタルモ
 ノナルハ拙者ノ明知スル所ナリ例ヘハ初メニハ水
 中ノ歐洲人カ砲撃セラレタリト云フ報知アリ其
 次ニハ水中ニテ九死ヲ出テ一生ヲ得ントスルモ
 ノヲ誰彼ノ別ナクト云フ報知アリ目下ノ報知ニ
 ハ射撃セラレタルモノハ沈没セントスル船ナリ
 ト稱シ何レモ皆ナ相矛盾セリ加之「フオン」ハン子
 ツケン氏ハ清國ニ仕フルモノナレハ其証言ハ公
 平又ハ中立的ノ証言トスル能ハス何レモ該船長
 及一等船員ノ陳述スル所ヲ俟タサルヲ得ス然ル
 ニ右等有害ノ報道者中既ニ右等ノ陳述スル所ハ
 強迫ノ下ニ爲シタルモノナリ該英國船ノ船員ハ

外務省

MT

1129 01347

MT

1129 01346

日本國官吏ノ為メニ囚人トシテ拘留セラレタリ
ト唱フルモノアレトモ是レ皆虚言ナリ右等ノ人
々ハ最寄ノ海港ナル佐世保へ伴ハレ數日間休息
ノ後長崎へ送ラレタリ新聞紙上ニ喋々シタルカ
如ク英國海軍司令官ニ於テ其引渡ヲ求ムルノ必
要ハ全ク之レナカリシナリ

拙者等ハ曾テ其趣ヲ耳ニシタルコトナシ
恐ラクハ然リ然レトモ是レ恰モ日本人ニ對シテ
故サラニ世論ヲ激昂セシメタル事件ノ一ナリ拙
者ハ只管希望ス政治家ハ斯カル境遇ニ於テ虚心
平氣ノ判断カラ失ハサランコトヲ

依テ余輩ハ互ニ最早何事ヲモ信セヌ唯ク詳報ノ
到着スルヲ俟タントス然レトモ拙者ハ速速ハ決
外務省

シテ英國ノ汽船ヲ差留ムル權利ヲ有セサリシコト
ヲ主張ス貴下ハトレント事件ヲ御記憶アルヘシ
該事件ハ殆ト米國ト戰端ヲ開カシメントシタリ
トレント事件ハ本事件ト異ナリ其故ハ當時米國
軍艦ハ英國ノ郵便汽船ヲ差留メ南方ノ外交使節
數名ヲ捕ヘタリ而シテ米國人ハ外交官若クハ派遣
委員ヲ指シテ戰時禁制品ナリト稱シタルヲ以テ
其事固ヨリ無法ニ屬セリ故ニ米國ハ英國ニ對シ
満足ヲ與ヘサルヲ得サルニ至レリ
拙者ハ内容ニ貴下ニ告ケントス今回ノ英國船沈
没事件ハ當ニ甚ク不當ナルノミナラズ實ニ愚昧
ニ屬スル事件ナリ
拙者モ貴官ト同様ニ之ヲ甚ク遺憾トス然レトモ

MT 1129 01349

MT 1129 01348

拙者カ是マテ辯明シ今尚ホ至當ト認ルル所ヲ論
 談ノ為メ事實ト見做スモ若シ英國ニ於テ僅ニ一
 官吏ノ為メニ日本國ニ對シ其友誼ノ關係ヲ變ス
 ルカ如キニ至ラハ猶更ニ一層ノ遺憾ヲ加フヘシ
 英國カ條約改正ニ由ラ創設中ノ大事業ハ之カ為
 メ破却セラルヘシ貴官等カ日本ヘ與ヘラレタル
 公明ナル讓與ノ結果ハ都テ烏有ニ歸スヘシ何ト
 ナレハ日本國ハ今感謝ノ意ヲ以テ英國ヲ視ルニ
 躊躇セズシク語ヲ飾テ言ハ、日本ニ於テハ英
 國ハ日本ヲシテ其主權ヲ束縛シタル所ノ壓制的
 條約ヲ脱セシメタル「救濟主ナリト思考セラル今
 日本國民一般ノ感謝ト稱スルトキハ恐ラクハツ
 シク大言ナルヘシト雖モ其國民一般ノ感情ハ全
 ク英國ニ向ヒ居ルコトハ貴官モ承認セラルヘシ
 李鴻章ノ如キハ「亞細亞ハ亞細亞人ノ亞細亞ナリ
 ト云フ主義ヲ以テ日本國ト合併悞カシテ西洋諸
 國ニ當ラント多年間畫策シ大ニ日本ヲ誘フタリ
 日本カ其申込ヲ拒ミタルハ恐ラクハ李鴻章ヲシ
 テ歐洲ノミニニ親マント決シタルカ如キ觀アル日
 本ニ對シ其嫌忌ヲ増サシメタルナラン
 然レトモ日本國ヲシテ斯カル方針ヲ取ラシメタ
 ル理由ハ如何
 其理由ハ唯タ日本人ハ清國人ノ意志若クハ主
 義ニ對シシシモ信ヲ置カサルニアリ日本ハ西洋
 諸國ニ反對ナル退歩主義ヲ執ル所ノ國トハ決シ
 テ悞同スル能ハサルノミナラス何人ト雖モ清國

外務省

MT 1129 01351

MT 1129 01350

ノ外交政畧ニハ聊カモ信ヲ置ク能ハサルナリ現
 ニ近頃朝鮮事件ニ於テ其水色ヲ見ハセリ故ニ高
 陞弼事件ノ如キハ其談判嚴ニ過キサルヲ英國ノ
 得策トス何トナレハ英國ヨリ歴カヲ用キントス
 ルトキハ其日本ニ於テ得タル好意ヲ失ハシムヘ
 ケレハナリ日本ハ英國ノ親交ヲ維持セン為メニ
 ハ凡ソ正當ナルモノハ其種ノ如何ヲ問ハス之ヲ
 行フニ躊躇セスト雖モ國威ヲ敗スカ如キハ其決
 シテ肯セサル所ナリ

然ラハ償金ヲ拂フコト得策ナラン

償金問題ニ至テハ權利問題ヲ以テ之ヲ論定スル
 ノ外ナシ然レトモ拙者一個ノ意見ニ由レハ今此
 所ニ於テ其議論ヲ繼續スルコトハ不都合ナルヘ

外務省

シ此難件ハ苦々敷キ議論ヲ用キス懇意ノ方法ヲ
 以テ之ヲ落着セシムルヲ得策トス

然レトモ貴下ハ右ノ議論ニ同意セサルモ要求ノ
 點ヲ落着セシムヘシト言フコトヲ得ベシ

是レ敢テ容易ナラス英國ノ海軍將官ノ如キハ本
 件ノ場合ニ當リ如何ナル處置ヲ施スヘキヤヲ御
 熟考アリタシ拙者ハ其全ク同様ノ處置ニ出ツヘ
 シト確信ス

然カアルヘシ英國人ハ其曲直ヲ問ハス英國海軍
 將官ヲ保庇スヘシト雖モ若シ遠速艦長カ不當ナ
 ルトキハ日本ハ同艦長ヲ保庇スヘキニ非サルコ
 トヲ貴下マテ述ヘ置クヘシ

拙者ハ英國政府カ其官吏ニ不當ナル行為アル場

MT 1129 01353

MT 1129 01352

合ニ於テモ之ヲ保庇スルカ如キハ日本政府ノ好
マサル所ナルベシト思考ス免ニ角追々証據ノ来
着スルニ隨ヒ本件ハ大ニ其趣ヲ異ニスヘシト確
信ス

「免ニ角英國政府ハ本件ニ関シ當分何等ノ處置ヲ
モ施サ、ルヘシ余輩ハ本件ヲ決定スルニ足ル充
分ノ詳報ヲ俟タサルヲ得ス

猶ホ「キムバ」レ「伯」ノ書翰ニ對スル回答ノ件ニ附
多少對談シタル後面晤ヲ終ハレリ

之ヲ要スルニ英國政府ハ長崎ニ於テ海事裁判所ヲ開キ
高陞弼策組員ヲ召換シテ審問セシメ若シ尚ホ不明ノ点
アラバ上海ニテ爾海事裁判所ヲ開廷セシメ熟審ノ上
公然帝國政府ヘ照會セントスルモノ、如シ

外務省

末松法制局長官ノ取調始末書ニアル高陞弼策客一独
乙人トハ即チ清國政府雇獨乙人「ハン」子ケンナリ同人ハ
該船沈没ノ際溺死ヲ免レ在仁川英國副領事ノ審問ヲ受
ケタリ今其審問ニ對ヘシ陳述書ニ依ルモ亦帝國軍艦ノ
行為正鵠ヲ失セサリシヲ証スルニ足レリ左ニ陳述書ヲ
録セン

汽船高陞弼ハ七月二十三日一千二百二十人ノ乗組人
大砲十二門其他小銃輜重等ヲ搭載シテ太沽ヲ發シ同
二十五日朝プリンスゼロム灣外ノ朝鮮多島近傍ニ
達セリ

此時船首右舷ヨリ大軍艦ヲ目撃セリ此軍艦ハ西方(殆
トポルトマ)リサルノ方向ニ疾驅中ニシテ支那軍艦ナ
ンウエン(靖遠)ニ似タル形ノモノト認メタリ同艦ハ我

MT

1129 01355

MT

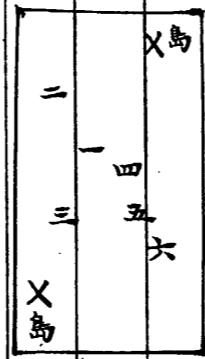
1129 01354

090654

船ヨリ大距離ニアリテ進行シ終ニ其踪跡ヲ失セリ七
 時頃船首左舷ヨリ仁川ノ方向ニ帆ヲ揚テ進行スル一
 船ヲ發見セリ同船ニシテ其方向ヲ変セサルニ於テハ
 我船首(若クハ船尾)ヲ横キラサルヲ得サリシナリ而シ
 テ我船ハ牙山ニ向ヒ進行セリ
 八時頃ブスリタン島背ヨリ進ミ来ル大軍艦ヲ發見シ
 十分時間許ヲ經テ先ツ一艘次テ二艘(即チ合セテ三艘)
 ノ巨艦同島ノ背後ヲ進ミ来ルヲ目撃セリ此等ハ余輩
 ノ視ル所ニテハ何レモ皆ナ偉大ノ甲鉄艦ナリ
 九時頃右軍艦ノ最モ前ニアルモノニ日本國旗アリ其
 上ニ白旗ヲ掲クルヲ認メタリ同艦ハ速ニ我船ニ向ヒ
 進行シ之ヲ過クルニ際シ其旗ヲ傾斜シテ敬禮ヲ示セ
 リ

外務省

此際右諸船艦ノ位置ハ左圖ノ如クナリ



一 高陞旗
 二 日本國旗並ニ白旗ヲ掲ケタル軍艦
 三 操江船
 四 五 六 他ノ軍艦
 是ニ於テ曩ニ見タル帆ヲ揚テ進行中ノ船ハ操江船タ
 ルコトヲ知レリ同船ハ此時其帆ヲ卸シ威海衛ニ向テ
 退ケリ
 余輩ハ右ノ如キ強大ナル日本艦隊ニ遭遇シ稍ヤ不安
 心ノ感アリタレトモ其一艦我船ニ對シテ其旗ヲ傾ケ

MT 1129 01357

MT 1129 01356

タルヲ以テ其異圖ナキヲ確信シ而シテ余輩ハ右艦隊
ハ操江ヲ追ヒツ、アルモノナリト思惟セリ右第四
第五第六ハ總テ日本軍艦ニシテ進行中ノモノナリト
知ラレタリ而シテ第四ナル日本艦ヨリ信號ヲ掲ケ空
砲ニ發テ轟カシテ我艦ニ向テ停行投錨ノ信號ヲ爲シ
タル時ハ我艦ノ位置ハ左ノ如クナリ

島
一五
六
三
島

我船ハ之ニ應ニテ投錨セリ其時復タ左ノ信号アリ
其所ヘ止マレ然セサル時ハ其責ヲ負ヘ

而シテ第四ナル日本艦ハ右ニ廻リ第六ト共ニ進行中
第五ニ近ツケリ蓋シ是レ我艦ノ清國運送船タル模様

外務省

明ヲカナルモ其英國旗ヲ掲クルヲ認メ其處置ニ惑ヒ
テ相協議スルノ為ナラント察セラレタリ

然ル後テ第四ナル軍艦ハ我艦ニ向テ来リテ盡ク其砲門
ヲ開キ殆ト一哩ノ四分一ノ距離ニ於テ停船シ端艇ヲ

卸シ我艦ニ向ヒ来レリ我艦中ノ清兵司令長ハ余ニ告
テ曰ク我兵ハ俘虜タランヨリハ寧ロ此海底ニ葬ラレ

ンコトヲ望ムト因テ之ヲ船長ニ通センコトヲ求メタ
リ清兵ハ甚タ激昂ノ有様ニシテ余ハ之ヲ鎮メテ談判

中ハ船上秩序ヲ保ツコト最モ必要ナルヲ知ラシムル
ニ困難ヲ感セリ

余ハ船長ガルスワールジニ司令長ノ意ヲ通シタリ
日本ノ端艇ハ我艦ニ着シ士官數名船内ニ来リ其端艇

中ノ水手ハ小銃及刀劍ヲ備ヘリ日本士官ハ船長室ニ

MT

1129 01359

MT

1129 01358

入り船長ハ其書類等ヲ示シ其實際英國船ナルコトヲ
 証明セリ是ニ於テ船長ハ日本艦ニ隨行スベシトノ一
 言ヲ告ケラレタリ余ハ此面談ニ臨マス是ヨリ先キ余
 ハ船長ニ向テ若シ必要ノ場合ニハ余ヲ招クヘシト告
 ケ置キタリ此際余ハ司令長及兵士ヲ鎮メルコトニ罷
 勉セリ余ハ日本端艇ノ來着前船長ト協議シテ船長ニ
 於テハ出發港ナル太沽ヘ引還ルコトヲ要求スヘキコ
 トニ決セリ何トナレハ余輩ノ同港出發前ニハ未タ宣
 戦ナカリシガ故ナリ

日本士官ノ談判ハ船長ガルスワールジニラシテ何等
 ノ要求ヲ貫カシムルノ暇ヲ與ヘス早ク既ニ日本艦ニ
 隨行ノ旨ヲ命シタルモノ、如シ且ツ余ハ日本士官カ
 去リタル後初メテ右ノ命令ヲ傳聞セリ

外務省

船長ガルスワールジニハ右談判ノ結果ヲ余ニ告ケ
 余之ヲ清兵司令長ニ通シタル時司令長初メ清兵中ニ
 大騷擾起リ刃又小銃ヲ擬シ船長水手等悉テ在船ノ歐
 入ヲ威嚇シ船長肯テ後錨スルニ於テハ之ヲ殲殺セン
 トセリ余ハ復タ此騷擾ヲ鎮ムルコトニ盡カシ且ツ船
 長ニ告ケテ談判ノ為メ端艇發送ノ信號ヲ掲ケシメタ
 リ其端艇直ニ來リタルヲ以テ余ハ自ラ船梯口ニ出テ
 日本士官ニ談セントセリ余ハ船中ニハ兵士等銃ヲ
 手ニシテ群集シ日本士官ニ於テ我請求ヲ容レサル徴
 候アル時ハ必ス之ヲ殺害スヘシト信シタルハ同士官
 ラシテ敢テ船中ニ來ラシメカリシ
 日本士官ハ右手ニ劍欄ヲ執リ船梯ニ來レリ余之ニ告
 テ曰ク「船長ハ他人ノ為メニ強迫セラレ貴命ニ從フ能

MT

1129 01361

MT

1129 01360

ハス船中ノ兵士ハ船長ノ貴命ニ従フコトヲ許サス司令長及ヒ兵士ハ其出發港へ帰航ヲ要求ス船長及ヒ余ノ考ニテハ既ニ宣戰ノコトアリトスルモ本船ハ素ト平時ニ於テ出發シタルヲ以テ右ノ要求ヲ至當トスト余ハ日本士官ニ於テ余ノ言ヲ解シタルヲ確メタリ而シテ日本士官ハ之ヲ其司令官ニ報スヘキ旨ヲ告ケテ去レリ

該端艇日本艦ニ達シタル後余輩ハ其回答ヲ待ツコト若干時ニシテ終ニ左ノ信号ヲ得タリ

「至急ニ船ヲ去レ」

此信号ハ唯タ在船ノ政入及ヒ策組員ノ為メニ發シタルニ外ナラザルナリ然レモ此勸告ニ應スヘキ機會ナシ蓋シ亦タ之ニ應スルノ意向ナシ

外務省

清兵ハ既ニ各船架ヲ占有セリ是ニ於テ船長ガルスワ「ルジ」ハ左ノ信号ヲ掲ケタリ

「余輩ハ其許ヲ得ス」

而シテ日本艦ハ之ニ對シ只タ回答旗ヲ掲ケ余輩ヲシテ其意向如何ヲ知ラシメス日本軍艦ハ運轉ヲ初メ我方ニ來ルヲ見タリ而シテ我右舷正面殆ト百五十米突ノ距離ニ達シタル片其運轉ヲ止メタリ是ニ於テ余ハ其水雷口ヨリ水雷ノ躍出スルヲ目撃セリ其後道ヲニ六個ノ砲門ヲ開キ水雷我船ニ達スル前ニ轟然既ニ二回ニ及ヘリ而シテ水雷ハ我船ノ中身即石炭艙ニ的中シ白晝忽チ暗夜トナリ炭粉木片翻浪相混シテ天半ニ連レリ是ニ於テ余輩ハ皆ナ海ニ投シテ泳ケリ

MT

1129 01363

MT

1129 01362

090658

游泳中余ハ我船ノ沈没ヲ見タリ船尾先ツ沈没セリ
 此間發砲引續キ游泳ヲ試ルモ助命ノ機會ナキヲ知リ
 タル船上ノ兵士ハ奮然之ニ應シテ發銃セリ余ハ日本
 艦ヨリ端艇ヲ卸シ多數ノ兵士ヲ備ヘ來ルヲ見其我船
 ノ殘兵救助ノ為メナルヲ信シタルニ遺憾ニモ其誤ナ
 ルヲ發見セリ端艇中ノ兵士ハ沈没船上ノ殘兵ヲ射撃
 セリ余ハ實ニ其中ヲモノハ日本艦及ヒ沈没船ヨリ狙
 撃セラレタルハ事實ナリ蓋シ沈没船ノ兵士ヨリ狙撃
 シタルハ已レ死ヲ免カレス寧口同胞モ亦夕生ケ置ク
 ヘカラストノ殘忍的觀念ニ基ツキタルナラン高陞蹄
 ハ水雷發射後殆ト半時間許ニテ全ク沈没セリ
 高陞蹄ハ一層ノ幸運ヲ求ムル好機會ヲ有シタルモノ
 如シ即チ其現場ニ停船セザレハ其責ヲ負ヘト告ケ
 ラレタル片其鎬鎖ヲ緩メ而シテ更ニ詭計ヲ施シ陽ニ
 日本艦ノ命ニ應スルノ意ヲ示シ終ニ島背ニ逃ルコ
 トヲ得タルヘシ是事ハ時ヲ失ハス之ヲ勸告シタリ
 然ルニ船長及ヒ役員ハ其船ニ英國旗ヲ掲クル事實
 ハ能ク之ヲ保護シテ敢テ敵對ヲ受クルコトナシト確
 信シ遂ニ其禍ヲ致シ同船ノ役員水夫及ヒ兵士モ亦タ
 皆チ此禍ヲ共ニシタルハ余ノ遺憾トスル所ナリ但シ
 余ノ知ル所ニテハ右兵士中游泳シテ其生命ヲ保テタ
 ルモノ僅ニ百七十名許ニ過キス而シテ他ノ歐入モシ
 テ能ク陸ニ達シタルモノアルヤハ余ノ未タ知ラサル
 所ナリ
 コンスタンチン・フオン・ハン子ケン(自署)

千八百九十四年七月三十日

MT 1129 01365

MT 1129 01364

REEL No. 1-0058

0101

090659

右ハ余ノ面前ニ於テ其姓名ヲ自署ス

在濟物浦

英國副領事

ダブル子、エーチ、ウイルキンソン

斯クテ在長崎英國海軍裁判所ハ高陞號策組員カ帝國政
府ノ取調ヲ受ケタル未解放セラレテ長崎ニ到着セルヲ
待テ八月四日英國領事館ニ於テ開廷シ左ノ審判及宣告
ヲナセリ

高陞號ハリツグド、スクリーナ形裝鉄船ニシテ登録噸數
ハ一千三百五十五噸公認番號ハ七、〇、〇、〇ナリバルロ
一、イン、フアルニスノ製造ニ係リ船籍ハ倫敦港ニ屬ス
當添廷ニ提出セラレタル證據ニ依レハ事實左ノ如ク
ナルカ如シ本船ハ少シモ荷物ヲ積載セス唯々支那兵

外務省

一千一百名ヲ策々朝鮮國牙山ニ向ヒ七月二十三日若
クハ其頃太沽ヲ出帆シタル事七月二十五日ノ朝ニ到
ルマテハ諸事異状無カリシカド午前九時頃ニ到リ日
本軍艦退速ヨリ停船投錨ノ信号ヲ受ケタルニ依リシ
ヨパイアル島ノ大凡北東ニ當リ其距離同島ヲ距大凡
一海里四分の一ニシテ深サ十一尋(一フアスムハ六呎ナリ)
ノ處ニ於テ該信號ニ從ヒタル事浪速艦ハ端艇ヲ用
キテ二度高陞號ト交渉ヲ為シタルニ高陞號ノ役員ニ
其船ヲ去ルヘシト命シタルモ支那兵ハ斯ク為スヲ役
員ニ許サ、リシ右終リテ午後一時頃ニ到リ浪速艦ハ
高陞號ニ向テ水雷一個ヲ發セシモ的中セザリシヲ以
テ側砲五門ヲ發シ次テ甲板並ニ砲塔ニアル機械砲及
大砲ヲ連發シ遂ニ大丸一時間ヲ經テ高陞號ノ沈没ニ

MT 1129 01367

MT 1129 01366

REEL No. 1-0058

0102

到ル迄發砲ヲ絶タサリシ事、砲撃ノ始マルニ當リ、乗組員並ニ支那兵若干名水中ニ投入セリ、其中船長「トーマス・ライダ、ガルスウオルシ」一等運轉手「リニーエス、ヘンリー、タムプリン」及按針長「リニアス、エヴァンセリス」夕（マニラ人）ハ乗組員中僅カニ生存スルモノナリ、當裁判所ハ前記ノ事状ヲ案査シ、其判定調書ヲ造ルコト左ノ如シ

一 高陞船ハ充分航海ニ適シ、又必要ノ諸点ニ於テ充分ナルト認ムル事

二 同船沈没ノ前並ニ沈没ニ際スルマテハ役員及乗組員ノ行為ハ満足ニシテ批難スヘキ廉無之事

三 沈没ノ原因ハ日本國軍艦浪速ノ為メニ屬ス、砲撃セラレタルニ因ル事

外務省

四 船長並ニ其乗組員ニ於テハ此ノ災厄ヲ免カルヘキ手數ナカリシ事

五 當裁判所ハ船長「トーマス・ライダ、ガルスウオルシ」並ニ役員及乗組員ニ對シ、何等ノ批難ナキ事

六 當裁判費六磅四志ハ正当ト認ム
一千八百九十四年八月七日於長崎

裁判長英國領事 ジョン・アイ、クイン 署

ケロヨルク船長 ジョン・ミッチェル 署

ドルーマラン船長 トーマス・イ、カウエル 署

尚ホ上海ニ於テ英國海軍裁判所ヲ開廷シ、再び高陞船長等ヲ審問セシ、末其宣告ハ帝國軍艦ノ行為ヲ正当ナリトシ、且ツ列席審判者英國海軍提督ハ本國政府ヘ該船ノ撃沈ハ正当ナリト思考スルヲ以テ、日本政府ニ對シ、何等

MT

1129 01369

MT

1129 01368

090861

ノ要求ヲ為サバ、ルコトヲ勸告セリ、レトノ電報アリシ後、
 英國政府ハ今日ニ至ル迄未ダ高陞號撃沈ニ関シ何事ヲ
 モ帝國政府ニ照會セサルヲ見レハ思フニ該政府モ亦帝
 國軍艦退速ノ行為ヲ是認セシモノナラン
 一説ニ印度支那汽船會社ハ其所有船高陞號カ未タ太沽
 ヲ出帆セザリシ以前ニ清國政府ト左ノ契約
 清國政府ハ在天津香港上海銀行へ英貨四万磅ヲ預ケ
 萬一宣戰前後ニ高陞號ニ過失出来セル時ハ會社へ該
 金員ヲ支拂フヘシ
 ナニシタルヲ以テ特ニ英國政府ハ清國政府ニ對シ交渉
 問題ヲ惹起スルノ必要ナシト傳フルモ其確証ヲ得サル
 ヲ以テ茲ニ暫ク疑ヲ存シ後日ノ參考ニ資セントス

外務省

MT

1129 01370

REEL No. 1-0058

0104